



ケイヨウキョウのケイヨウイソ



博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい!

千葉のおもしろ博物館

第2回

千葉県立現代産業科学館(市川市)

インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

千葉県の産業の歴史と技術が学べる、 大人から子供まで楽しめる体験型博物館

千葉県立現代産業科学館は、千葉県の基幹産業である電力、石油、鉄の歴史と、産業の発展を支えた最先端技術を展示する施設です。今年で開館30周年を迎え、子供から大人まで楽しめる体験型の展示が特徴の博物館です。

千葉県の産業の発展に深く関わった多くの技術が紹介され、さらにこうした技術が今どのように世の中を変え、私たちの生活に影響し、豊かなものになっているのを知ることができます。また、電力、石油、鉄の3つの産業を中心とした千葉県産業の歴史や、100年以上前の貴重な資料、さらに現代の技術までもが紹介されています。展示では資料だけでなく実際に使われていた機械や装置の実物やレプリカ、精巧なジオラマなど、まるでそこにいるようにそれぞれの時代の活気ある産業の様子を見ることができます。

さらにもう1つ、千葉県立現代産業科学館の大きな特徴は体験型の展示が豊富な点です。子供たちが触って、動かしてワイワイ楽しみながら科学を学ぶことができる工夫が各所にあります。特にお休みの日にはたくさんの子供たちが来館してくれています。

こうした常設展示のほか、職員が頭を絞って企画し、3年ほどかけて準備を行う企画展を1年に1度程度開催しています。千葉県は海に囲まれ恵まれた立地であるため、電力、石油、鉄やここから派生するさまざまな産業が発展してきました。企画展ではこうした産業のまだ知られていない多様な技術を企業の方々と連携しながら、皆さんにお伝えするようにしています。これは産業に恵まれ多くの技術が発展してきた千葉県だからできる企画です。

皆さんもぜひご来館いただき、千葉県の技術と産業の素晴らしさを再発見していただければと思います。



千葉県立現代産業科学館
学芸課課長 堀内 裕子さん

千葉県立現代産業科学館とは？

千葉県立現代産業科学館は科学技術と産業の進歩を、体験を交えながら学び、子どもから大人まで楽しみながら知ることのできる施設です。

産業に応用される科学技術、科学的な現象を体験的に学ぶことができるよう設計されており、実際に手を動かしながら理解を深めることができます。

各エリアでは、産業の歴史の生き証人と言える本物の道具や製品、その迫力や雰囲気を感じることができる巨大な複製や、ち密なジオラマも豊富に展示されています。

川崎製鉄千葉1号高炉

この高炉は、1953年の運転開始当時の世界最先端技術を取り入れ、京葉工業地域の発展のきっかけとなりました。日本の高度経済成長を支え、鉄鋼業発展の記念碑的存在です。1階と2階のフロアを使って展示されている巨大な模型で、とても迫力があります。



歴史と技術が学べる3つのエリア、そして大人気のプラネタリウム

展示は大人から子供まで産業に応用された科学技術を体験的に学ぶことができるよう、大きく3つのエリアに分かれています。

「現代産業の歴史」は電力、石油、鉄の歴史や現代の技術を展示。「先端技術への招待」は先端技術とこの技術が私たちの生活をどのように変えてきたかを紹介。そして「創造の広場」は子供たちが触って遊びながら科学を学べる体験型の展示が行われています。

また年に1度程度、2ヶ月間、特定のテーマに焦点を当て企画展を開催。ほかにも毎日4か所の実験スペースで行われる演示実験や科学館わくわく教室なども開催中。夏にはプラネタリウムも大人気でさまざまな番組を上映しています。

千葉火力発電所タービンローター



現代産業の歴史

「千葉県の産業の歴史と未来」「電気・石油・鉄との出会い」「電力産業」「石油産業」「鉄鋼産業」の5つのコーナーに分かれています。あの伝説の名車T型フォードが中央に。往年のロボットアニメに出てくるような姿のベッセマー転炉や川崎製鉄千葉1号高炉の2フロアを突き抜ける巨大な模型も迫力があります。



▶イギリスの発明家ベッセマーが発明した転炉。大量の銹鉄(せんてつ)を簡単に鋼鉄(こうてつ)に変えることができる画期的な発明。なんとなくあのロボットに似ていますね。

創造の広場

約30種類の科学現象が体験できる装置が並び、子供たちに大人気のエリア。触って動かしながら科学の楽しさや凄い現象を学ぶことができます。特に水と空気でロケットを打ち上げるウォーターロケットや、巨大なシャボン玉が作れる実験コーナー「ガリバーのシャボン玉」はいつも行列ができるほど人気です。



▲スイッチオンで徐々に空気が充填されていく時間はまさにドキドキのカウントダウン。



▲さりげなく、大胆に巨大なシャボン玉を作る職員の方。思わず歓声が上がります。

先端技術への招待

エレクトロニクスや新素材、バイオテクノロジーなどの先端技術とこれらの技術の根底から支えている超高真空や超低温などの極限環境をつくりだす技術について紹介。他ではめったに見られない珍しい装置が並んでいます。

展示室の最後にあるバーのような実験カウンターでは、目の前で科学の実験を実演してくれます。



サイエンスドーム

毎年夏には恒例のプラネタリウム上映会が行われます。令和6年の夏は世界的プラネタリウム・クリエイターの大平貴之氏による「千葉の星めぐり -150年の歩みとこれから-」「星のある風景 一旅-」「Ancient Stars -50万年前の星空-」の三作品が上映され、大好評でした。



●問い合わせ／千葉県立現代産業科学館 市川市鬼高1-1-3
TEL.047-379-2000(代)

すごい!このホンモノを見逃すな!

T型フォード

これ見て!



館内に入り最初に足を踏み入れる「現代産業の歴史」。その広いスペースの中央には本物のT型フォードが展示されています。

T型フォードは1908年のデビューから1927年までの間に1,500万台以上生産され、車の大衆化に大きく影響した、まさに車の歴史を変えた名車です。

思わず入り口から駆け寄りたくなる衝動を抑えつつ近づいていくと、思ったよりも大きな車体。そのボディーの光沢、部品ひとつひとつの形、シートの輝き、重厚かつ華やかなデザイン、すべてが美しく、工業製品のはずなのに美術品のようにいつまでも

うっとりとして見られます。

千葉県立現代産業博物館には2台のT型フォードが保存されていて、1台がこの展示車両。そしてもう1台が走行可能な状態で保存されています。現在、日本で乗車可能なT型フォードはごくわずか。年に数度、展示を兼ねた乗車会も行われます(あまりの人気のため、事前に実施予定の発表はありません)。

お子さまには「創造の広場」の科学体験でゆっくり遊んでもらいながら、お父さまはここで至福の鑑賞時間をしばし過ごす。そんな楽しみ方も良いかもしれません。

イベントに行ってみよう!

これまで、こんなイベントもやっていました



科学館わくわく教室

【回転式アニメーションをつくろう】

鏡に映して回すと、クラゲやイルカのアニメーションが動いているように見える仕掛けを、先生の指導のもと子どもたちが自分の力で作成。映し出された映像に「すごい!」という声がたくさん聞かれました。



科学館わくわく教室

【不思議なスタンドグラスをつくろう】

底を切り取った紙コップに偏光板をつけ、そこにセロハンテープを重ねていったものをのぞくと、まるで本物のスタンドグラスのような世界が体験できます。さまざまな色に変化し、「きれい!」と喜びの声が聞こえてきました。

「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第2回をご覧ください。



今回紙面でご紹介した展示物、「現代産業の歴史」に展示されていた、車の大衆化に大きく影響し、歴史を変えた名車の名前は何でしょうか
次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 川崎製鉄千葉1号高炉
- ② ベッセマー転炉
- ③ T型フォード

取材協力・撮影協力・写真提供/千葉県立現代産業科学館

プラスαで、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



2025.2
(次回発行予定/
2025年3月19日)

正解は→③ T型フォード